

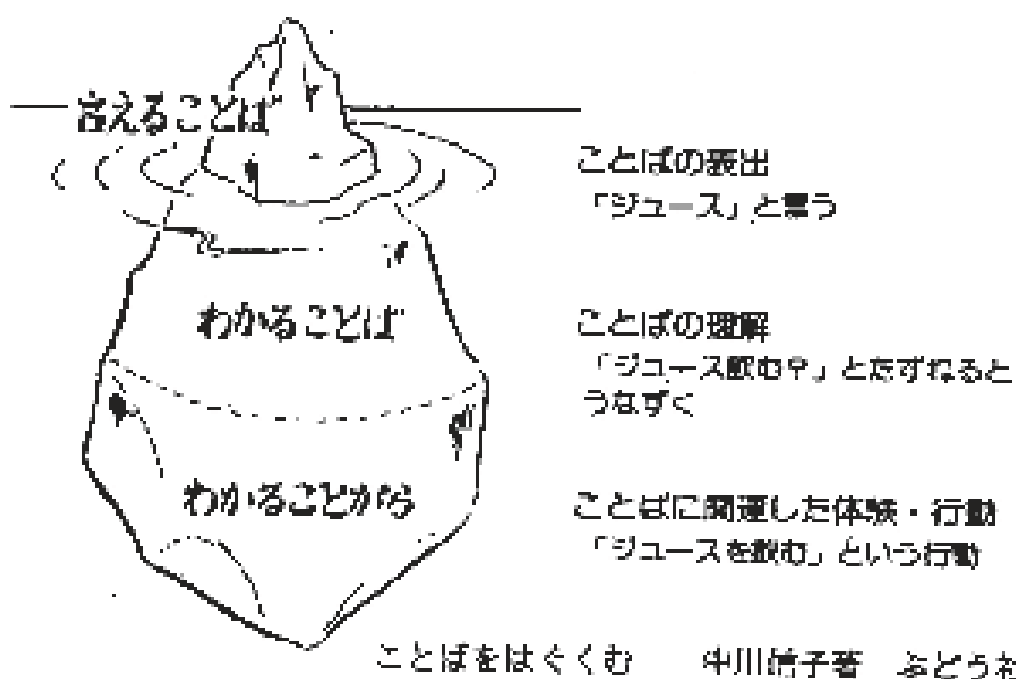
## ことばについて



『ことば』についてお話をうかがうと〈言語発達〉と〈発音〉に関わるご相談が多く聞かれます。ここでは、それぞれについて、説明させていただきます。

### 〈言語発達について〉

言語発達というと「まんま」「わんわん、きた」のように、単語から始まり、二語文、三語文となっていく『はなしことば』の発達を想像される方がほとんどであると思います。それまで笑ったり、泣いたりしかしていなかったお子さんが、生後1年ほど過ぎるとことばを話し始めます。その劇的な変化はとても印象に残り、この時初めて『ことば』を意識することになるからです。しかし、この『冰山』の絵をご覧ください。



ことばをはぐくむ 中川信子著 ぶどう社

水面下に『わかることがら』『わかることば』がたくさんあって、はじめて『言えることば』が水面上に出るのです。

『言えることば』は、まさに“氷山の一角”なのです。

ことばを話すためには、普段あまり注目されない、状況やことばを理解する力が不可欠なのです。その力は日常生活での出来事やことばのやりとりを記憶することで蓄えられます。

記憶することが苦手な子どもたちが、出来事やことばのやりとりを蓄えていくためには、周囲の人々に工夫が求められます。

その一つが『経験する』機会を多く提供することです。人間は耳だけではなく、目や鼻、肌など体全体から外部の情報を取り込むことができます。単一よりは複数の入力経路を活用した方が、記憶するためには効果的です。それが『経験する』ことなのです。

例えば、100回「まんま」と言われるよりも、おいしいごはんを「まんま」と言われながら口に運んでもらったほうが、記憶に残りやすいのではないのでしょうか。

もう一つは『ことばがけ』の工夫です。話しことばは目に見えず、すぐに消えてしまうため、記憶にとどめることは難しいものです。いかに話しかけている時に関心を向けてもらえるかがポイントとなります。

伝えたいこと、理解して欲しいことはたくさんあるでしょうが、まずはお子さんが見ているもの、聴いているもの、つまりお子さんが関心を示しているものについて、ことばがけをしてみてください。そうすることで、日常生活の中で、話しかける内容もきっかけもごく自然に見つけられるでしょう。

また、せっかくならば理解しやすく、可能であれば次の『言えることば』につながるようなことばがけにしたいと思います。

以下に代表的な工夫を挙げました。

- ① ことばがけはゆっくり、はっきり、短く。適宜繰り返す。  
大きな声とはっきりとは違います。  
大きな声でお子さんを驚かせないでください。
- ② 指をさしたり、手を取ってあげたりして、お子さんの注意を向けさせてから話し始める。
- ③ お子さんの動作にあわせてことばがけをする。  
例) おもちゃを運びながら「よいしょ、よいしょ」  
パンツをはかせながら「パンツ、はくよ」「足あげて」
- ④ おこさんが経験している時にことばがけする。  
例) 水を触って「冷たいね」  
犬にほえられて「怖かったね」
- ⑤ ジェスチャーや実物を見せながら  
例) 指で切るジェスチャーをしながら  
「ちょっきん、ちょっきん。切るよ」  
靴を見せながら「お外に行くよ」
- ⑥ お子さんの行動や気持ちを言語化する。  
例) 「すべりだい、しゅーしたね」「おもしろかったね」
- ⑦ お子さんのことばに新たなことばを加え、意味をひろげて話しかける。  
例) お子さんがおもちゃを机から落として、母を見ながら



「あー」と言ったら・・・

「あー、落としちゃったね」

〈発音について〉

人間は生まれてすぐに、正しい発音ができるようになるわけではありません。舌を動かすことが少しずつできるようになっていく中で、いろいろな音が出せるようになり、その中で特定の発音をする時には、特定の舌の動きをするようになります。これが正しい発音の獲得です。

下の表をご覧ください。

年齢	発音の発達の基
1	パピプペポ・バビブベポ
2	マミムメモ・ナニヌネノ
3	タテト・ダデドの音 カクケコ・ガグゲゴ・キ・キャキュキョ
4	ギ・ギャギュギョ・チ・チャチュチョ ハフヘホ・ヒ・ヒャヒュヒョの音
5	サスセソ・ザズゼゾ
6	ラリルレロ・ツの音

発音の発達の基準

(NHK ことばの治療教室、1968)

音によって発音できるようになる年齢が違ってくるのがわかります。50音のなかでも、発音するための舌の動きが簡単な音と難しい音があることを意味しています。この他に、発音できるようになる年齢に幅があることから、正しい発音の獲得時期には個人差が大きいことがわかります。

染色体に変化をお持ちのお子さんは、筋肉の張りが弱いといわれています。そのため、筋肉でできている舌を随意的に動かすことが苦手で、正しい発音の獲得時期がややゆっくりになることがあるようです。

対処方法としては、食事で噛む経験が、舌の運動を促進するといわれています。舌が食物を口のなかで上下、左右、前後と移動させることが、良い練習になるようです。

就学近くになり、発音の不明瞭さが目立つようになっても、決して言い直しはさせないで下さい。ことばを話すことに自信をなくしてしまう恐れがあります。訂正はしないで、正しい発音をさりげなく聞かせてあげてください。

発音は舌運動の問題だけではなく、言語発達の影響も受けるものです。発達していく中で、正しい発音を獲得する場合もあるので、お子さんの機が熟するのを待つ必要があるかもしれません。

ただし、発音の不明瞭さが友人関係、学校生活等には多大な不利益をもたらしている場合には、言語聴覚士や市町村のことばの教室の先生に御相談されることをお勧めします。

言語発達および発音のどちらにおいても、1つの階段を昇るために時間は要しますが、着実に力を付けていくお子さんたちです。無理に引き上げるのではなく、お子さんの頑張りをおおいに応援してあげましょう。